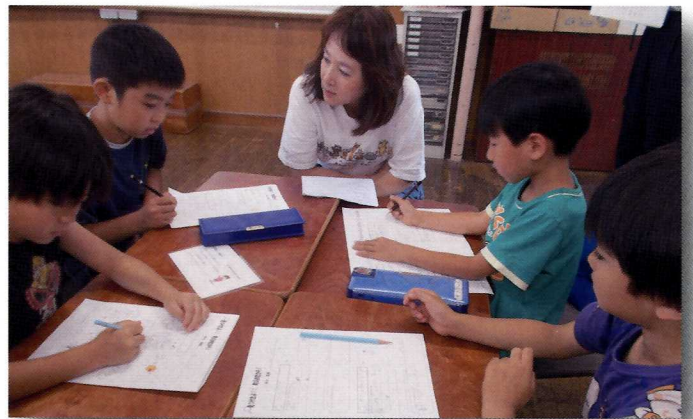


主体的に地域に学び、 地域に貢献できる児童の育成

—地域連携カリキュラムの開発—



はじめに

新宿区立淀橋第四小学校 校長 権田伸子

本校は、平成 25・26 年度、新宿区教育委員会教育課題研究校として、新宿区教育課題研究校（地域協働学校）の研究主題「豊かな学びの環境をはぐくむ地域協働学校を目指して」を受けて研究を進めてまいりました。平成 25 年度地域協働学校準備校に指定され、学校運営協議会を中心に、多くのボランティア（未来クラブ）の皆様の参画を得て活動を開始しました。地域協働学校としてスタートした本年度は、「主体的に地域に学び、地域に貢献できる児童の育成」—地域連携カリキュラムの開発—を本校の研究主題とし、『笑顔いっぱい地域（チーム）淀四』を合言葉に、学校支援部・学校評価部・連携活動の実践を学校・保護者・地域が一体となり、積み重ねてまいりました。

まだ、発展途上の研究ではありますが、少しでも本研究の成果をご活用いただければ幸いです。

研究構想図

新宿区教育ビジョン（平成24年度～27年度）

柱 2 新宿のまちに学び、家庭や地域とともにすすめる教育の実現

課題6 地域との連携による教育の推進

—児童の課題—

- 学習意欲の向上
- 運動能力・体力の向上
- 規範意識、自己肯定感の向上
- コミュニケーション力の向上
- いじめ・不登校の解消
- 基本的な生活習慣の定着
- 児童虐待の早期発見 等

＜新宿区教育課題研究校（地域協働学校）の研究主題＞
豊かな学びの環境をはぐくむ地域協働学校を目指して

大学との連携

地域協働学校
—笑顔いっぱい地域(チーム)淀四—

学 校

＜研究主題＞

主体的に地域に学び、地域に貢献できる
児童の育成
—地域連携カリキュラムの開発—

＜研究仮説＞

- 地域の教育資源・人材に触れる機会をすすんで取り入れ、授業で有効活用することにより、児童が地域に対し、主体性をもって貢献できるようになる。
- 地域住民の参画により、子どもの地域への関心や地域の一員としての自覚が高まる。

学校運営協議会

＜目 標＞

学校・家庭支援への主体的な参画

＜期待される効果＞

- 学校・家庭支援による活動を通して、地域のネットワークが拡大し、地域の活性化に結び付く。
- 学校支援活動により、子どもの地域への関心・意欲が高まる。

＜目指す児童像＞

- ・ 地域の一員としての自覚をもつ子ども
- ・ 地域の未来を考える子ども

＜研究内容＞

- 学校運営協議会との連携
- ボランティアをはじめ教育資源の有効活用
- ◎ 教科等における連携カリキュラムの開発
- 子どもの主体的な地域参画・貢献
- 学校評価
- 家庭支援
- 防災等の安全教育
- 学力・体力向上

＜取組内容＞

- 学校運営協議会組織と学校・PTA組織との連携
- ボランティアの拡大と連絡・調整
- 協議会の運営方法と広報活動
- 「淀四子どもを守る会」との連携（防災等の安全面の確保）
- 学力・体力向上に関する支援の充実
- 学校評価

淀四小での「地域」のとらえ方

地域とは

場所・もの

- 公共施設
- 幼稚園・保育所
- 田畑・商店
- 遊べる川や林
- よく通る道
- 目印にしている場所や物
- 働く人・学ぶ人 ○ 近隣の人
- 友達の家やその家族

人

淀四の教員が思い描く地域

愛 着

- ・ 生活を共にする場
- ・ 居て楽しい場
- ・ 自分の好きな場所
- ・ 居場所・育てる場

つながり

- ・ 人とのつながり
- ・ つながれる、かかわれる人がいる場
- ・ 思いやり、助け合いがある関係
- ・ 自己有用感

だれでも

- ・ 住む人、働く人にとっての居場所
- ・ 外部から来てもいつでも入れる空間

各ブロックの期待される児童像（※ は目指す児童像）

期待される児童像	高学年	地域によさや課題に気付き、よりよい地域について考える。	地域の一員としての自覚をもつ。	地域のためにできることを考え実践する。	地域の一員として、自ら地域に働きかける児童
	中学年	地域によさに気付き、愛着を深める。	地域の考えを共有する。	地域のためにできることを考える。	地域に親しみ、地域とかかわる児童
	低学年	地域に親しむ。	地域と一緒に考える。	地域にすすんでかかわる。	地域とのふれあいを通して、地域を好きになる児童

地域活用型

地域の題材や人材を活用する学習

地域共学型

児童も地域住民も「主体性」をもって進める学習

地域参画型

地域貢献活動等、児童が地域に参画する学習

学校運営協議会

地域（チーム）淀四

学びのサポート

- ①ゲストティーチャーやサポートの募集
- ②「漢字検定」「算数検定」などのボランティアの募集・実施



2年 地域の人とのまちたんけん計画



漢字検定に取り組む子どもたち



地域の人に見守られての、朝遊び

安全サポート

- ①朝遊びの企画・運営
- ②登下校の見守り

学校評価部

学校評価の項目検討、実施、改善



学校運営協議会での様子

学校支援部

みどりのサポート

- ①学校の校庭花壇の美化
- ②児童の環境委員会のサポート
- ③環境学習の充実



地域の人と環境委員会の児童による校庭花壇の水やり

読書サポート

- ①朝の読み聞かせ
ボランティアの募集・実施
- ②図書室や図書関係の掲示板の整備
- ③図書教材の作成



読書サポートのボランティアによる朝の読み聞かせ

連携活動

「スポカル広場※」
 ・「放課後子どもひろば」との連携
 ※毎週、土曜日の午前中に校庭・体育館を解放して児童の遊び場の提供やスポーツの実技指導を行う。



「放課後子どもひろば」で遊ぶ様子

これまでの実践

地域活用型

地域共学型

地域参画型

低学年

学校たんけん、公園たんけんでは地域の皆様と同じものを見たり、聞いたり、触れたりして互いに共感をすることで地域の皆様に親しみをもつことができた。また、町の自然やものについて子どもから内発する疑問や課題、驚きに答えていただくことで、児童の興味や関心を深め、共に地域について学び合うことができた。



1・2年 地域の人と公園たんけん



2年 地域の人とまちたんけんのふりかえり



2年 地域の人とまちたんけん



2年 まちたんけん報告会

中学年

体験活動と子ども自身の思考を深める交流活動を繰り返し設定した。探究意欲の持続と、地域への興味・関心を高めることができた。また、地域共学型の活動により、淀橋地域をもっと住みよい町にしていきたいという思いが広がり、地域の活性化にもつながった。



3年 地域の人と町たんけん



3年 「地域の危険」についての話し合い



4年 「高齢者のためにできること」の話し合い



4年 「高齢者施設訪問」ふれあいの実践

高学年

「米」「健康」「東日本大震災」をテーマに地域の皆様とかかわりながら学習を進めてきた。その中で、児童は新たな課題を見付けたり、自らの課題を解決したりすることができた。地域とかかわることに留まるのではなく、共に学習を積み重ねることで、地域のために何が自分たちに出来るかを考えるようになった。



5年 地域の人からバケツ稲の植え方指導



6年 元気いっぱい淀四塾(学校保健委員会)



5年 米のよさを伝えよう



6年 東日本大震災から学ぶ

成果

学校・地域 ○ 研究を通じて、地域住民が参画したことにより、

- ① 人材発掘・出会いがあり、地域とつながりができてきた。
- ② 地域との連携の基盤ができ、充実した継続的な活動を行う基礎ができた。

家庭

- ③ 学校運営協議会への理解や協力をしてくれる人が増えてきた。
- ④ 学校・地域・家庭が互いに共に学ぶ姿勢が生まれ始めた。

児童

○ 地域の教育資源・人材に触れる機会をすすんで取り入れ、授業で有効活用してきたことで、

- ① 児童が地域を知り、地域に目を向けはじめ、地域への愛着や誇りを感じるようになった。
- ② 意欲的に取り組み、相手を意識した言動が身についてきた。
- ③ 学んだことを相手に伝える力・発信する力・表現力が身についてきた。
- ④ 学校・地域と共に学ぶ姿勢が生まれ始めた。

課題

- 児童が主体的に地域に貢献できるよう、
 - ① 単元のねらいや活動計画を明確にして地域の協力者と打ち合わせをし、より効果的な協力をして頂けるようにする。
 - ② 児童が学んだことを地域・保護者へ発信したり、継続的な活動につないだりしていくことを目指す。
 - ③ 地域・学校のねらいに応える活動の工夫をする。
- 地域と連携した活動の評価・検証方法の工夫を図る必要がある。

御指導いただいた先生

東京学芸大学 教育学部教授 松田恵示 先生

研究に携わった教職員 (平成 26 年度)

◎は研究推進委員長 ★研究推進委員

校長	権田伸子	副校長	明石真吾
1 年	★秦 さやか ◎小林周平	2 年	竹山朱美 後藤藍子 山田宗和
3 年	★久保田恵美 篠宮亜由美	4 年	大守 泉 渡部 透
5 年	★牧 富貴子	6 年	嘉門克文
少人数	菊池紘之	養 護	加藤真友美
音 楽	久保安代		津田恵子
図 工	★峰岸志保	事 務	山口孝弘
1年副担任	皆川哲也	学習支援員	中野亜美
日本語	石坂利美子	栄養士	吉崎涼子

研究に携わった教職員 (平成 25 年度)

校長	白倉代助			
職員	安田真理	坂本英昭	重田佳代	
	阿部和美	松尾尚城	大西夏子	志村 祥